はしがき

一橋大学創立 150 年史準備室長／学園史資料室長
大月　康弘

本学は、昨年 9 月 24 日に創立 142 周年を迎えた。

1875 年に創設された商法講習所以来の本学の歴史は、殖産興業に始まる日本社会の近代化、産業化を推し進める人材養成の歴史だった。そして、日本の社会科学を発展させる担い手の養成にも努め、学問世界に幾多の俊才を送り出す歴史でもあった。いずれの方面にも注目すべき人材が育った一橋学園の歴史を辿ることは、日本の近代史を考える上で重要な作業にほかならない。

一橋大学の歴史を通じてのひとつの特長に、ゼミナール制度がある。ある専門に長じた本学の教授たちは、他方で優れた教養人でもあった。華のあるひとりのゲレールテ Gelerte との出会いは、学生たちの人生航路を決定づける力をもっていた。生涯を通じて育まれる教員とゼミナール学生たちの交流は、それぞれに思い出深いエピソードに満ちている。ゼミナール同窓の人間関係は、教員と学生、また各方面に勇躍した卒業生同士を結びつけて、ひとつの興味深いネットワークを形成してきたといってよい。

学問世界に身を投じた卒業生たちもまた、この人的交流のなかにあった。特に本学で後進の育成に当たった教員の場合、このゼミナール制度の恩恵を胸に、自らも研究と教育に邁進することとなる。本号では、そういった学究が、その学問形成の途上でどのような出会いをし、何を考え、我が道を歩みだしたのかについて、４人の碩学に語っていただくこととした。

鈴木良隆、寺西重郎、山内進、田中克彦。いずれも各分野で日本を代表する泰斗である。この 4 人の名誉教授に、それぞれの「学問史事始め」についてお書きいただいた。先生方が、本学に学ばれた初期において、当時の先達から何を学ばれたのか。堅苦しい学問史ではなく、生身の人間同士の付き合いも含めて、当時学ばれたこと、種々の交流から得られた学問的影響について、ざっくばらんに語っていただいた。私も初めて伺うような珠玉のエピソードを披瀝くださり興味が尽きない。現役学生諸君も先生方の若かりし頃に学び、何ものかを掴み取ってもらえれば幸いと思う。

本号には、このほか 2016 年度の「一橋大学の歴史」にご登壇いただいた宮崎省吾氏（昭和 36 年社会学部卒）、同科目の担当講師でもある酒井雅子氏（昭和 58 年法学部卒、平成 2 年国際企業戦略研究科修了）、また学園史資料室で長年にわたりご尽力いただいてきた大場高志氏（元 学術・情報部長）からも貴重なご寄稿をいただいた。いずれも本学が各時代においてもった知的エネルギーの発露を語ってくださっており、興味深い玉稿である。